

Kyoto Prefecture Hospital Association News

第10号

2017年1月

京都府病院協会ニュース

《発行所》一般社団法人 京都府病院協会 《発行人》依田 建 吾 〒604-8585 京都市中京区西ノ京東柵尾町6 京都府医師会館内
TEL 075-354-6104 FAX 075-354-6074 <http://www.fubyokyo.kyoto.med.or.jp/>

新年のご挨拶

会長 依田 建 吾



新年あけましておめでとございます。
今年例年になく暖かめで穏やかな年明けだったような気がいたします。京都府病院協会の会員の皆様方におかれましては、平穩のうちに新年をお迎えになられた事と拝察し、お慶びを申し上げます。

今年診療報酬改定の年には当たりませんが、政府・与党の基本方針は2017年度予算編成に明確に現れております。2020年度までにプライマリバランスを黒字化する、との財政健全化目標を金科玉条に、高齢化社会では必然的な社会保障費の自然増の抑制策を予算編成方針の目玉に据え、医療1000億、介護400億円の圧縮という報道がありました。昨年の8年ぶりのマイナス改定に

より、多くの病院の経営状況が悪化しております。小職が所属している全国赤十字92病院中、上半期に黒字を計上した病院はわずか12病院しかありません。さらに来年は診療報酬・介護報酬の同時改定に当たり、マイナス改定は、ほぼ間違いなく、地域医療構想を含め、さらに多難な時代に進んでいく気がいたします。

さて、その地域医療構想策定のため医療審議会に設置された、地域医療構想策定部会は一昨年末に2回目が開かれてから10ヶ月間の空白の後、10月に第3回目が開かれ、京都府地域医療構想(ビジョン)(案)が京都府保健医療計画の一部という位置付けで提示されました。京都府は病床総数で大幅な変化がないため、病床機能別の設定はせず、現行の二次医療圏別の総数としての提示がありました。機能別では二つの特定機能病院を抱える、京都・乙訓医療圏の調整は非常に困難だと予想されますが、その実働会議である京都市域医療構想調整会議が日程調整に手間取り3回目が開催されていないのが現状です。私見ではありますが、京都府全体の地域医療構想であり、特定機能病院をも含めた機能別病床数の制定である限り、少なくとも京都府立医科大学は、地域医療構想の中での位置付けを明確にすべきであると考えます。京都大学を含めた特定機能病院は7、1に固執し、看護師や患者集めに走るのではなく、高度先進医療に特化していくべきではないでしょうか。

京都府病院協会は法人化されましたが専任事務局員を配置するのは難しく、近畿病院団体連合会や京都府病院学会の運営など、独自では大変困難でありますので、故棍田元会長に引いていただいた路線を踏襲し、京都私立病院協会との協力関係を維持しつつ運営していきたいと思っております。会員諸病院の皆様のお力をお借りしないと不可能です。今後ともご迷惑をおかけ致しますが、ご指導のご鞭撻の程、お願い申し上げます。

最後に会員病院の皆様にとつて2017年がより良い1年であり、会員施設の益々のご発展と、皆様方のご健勝を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。
本年もよろしくお願いたします。



謹賀新年

会長 依田 建 吾 (京都第一赤十字病院)

副会長 香 川 惠 造 (福知山市民病院)

副会長 森 本 泰 介 (京都市立病院)

理事 小 野 晋 司 (三菱京都病院)

理事 北 野 堅 吉 (日本パプテスト病院)

理事 日 下 部 虎 夫 (京都第二赤十字病院)

理事 小 西 郁 生 (京都医療センター)

理事 杉 山 博 (宇多野病院)

理事 辰 巳 哲 也 (公立南丹病院)

理事 中 村 直 登 (済生会京都府病院)

理事 能 見 伸 八 郎 (京都鞍馬口医療センター)

理事 野 口 雅 滋 (社会福祉法人京都社会事業財団)

理事 宮 野 前 健 (京都府立洛南病院)

理事 山 下 俊 幸 (京都府立洛南病院)

監事 倉 澤 卓 也 (京都予防医学センター)

監事 齋 藤 信 雄 (洛和会東寺南病院)

新年のご挨拶



副会長
香川 恵 造

新年明けましておめでとうござ
います。

新しい年の始まりに際し、謹
んでご挨拶申し上げます。

昨年を振り返りますと、12月に
は京都府の地域医療構想の中間案
が示されました。病床機能報告と
同じ内容で、各病院の調整に任せ
るといふものでした。今後、各病
院は人口動態や疾病構造の変化に
対応した自院の立ち位置を一層明
瞭化させていく必要があります。
また、在宅医療の確保がこれから
大きな課題になることも明らかと
なりました。地方の基幹病院では、
レスパイト入院を含め地域包括ケ
アシステムとの関わりを今まで以
上に考慮する必要があります。

来春には、診療報酬・介護報酬
の同時改定が予定されています。
大変厳しい改定が予測されてお
り、準備をしっかりと進めていか
ねばなりません。
昨年は、英国の国民投票による
EU離脱の決定が始まり、フィリ

ピンやアメリカ合衆国の大統領選
など従来の感覚では想像できない
変化が起こっています。既成の体
制に対する人々の不信の表れと思
われます。新専門医制度をめぐる
ドタバタや不透明な医療施策をみ
ると、医療界も今までのシステム
に依存するだけでは立ち行きませ
ん。「良質で、安心・安全な医療
を効率的に提供する」という原点
を忘れず、戦略的かつ楽観的に乗
り切っていくことが肝要と考える
次第です。

本年が皆様にとりまして、希望
に満ちた明るい年になりますこと
を祈念申し上げます、年頭のご挨拶と
いたします。



副会長
森本 泰 介

新春のご挨拶を兼ねて、京都府
病院協会副会長就任のご挨拶を申
上げます。

平成27年4月に京都市立病院院
長に就任し、院長業務に忙殺され
ていましたが、昨年当協会の理事、

副会長を仰せつかりました。力量
不足ではありますが、香川恵造副
会長とともに依田建吾会長を全力
で補佐する所存です。よろしくお
願い申し上げます。

さて、京都府の地域医療構想は、
平成28年秋には「地域包括ケア構
想」と名称を変え、今年度中には
最終案が策定されます。取えて
各医療圏での病床数や、病床機能
を細分化せず、病床数には幅を持
たせた案になっています。また、
2025年の病床需要と供給のバ
ランス予想は、国と京都大学が独
自に行ったものが併記され、その
数字は概ね妥当かと思えます。し
かし個人的には、特に人口と医療
機関が多い京都・乙訓医療圏では、
医療機関の間での単純な病床数調
整には、意味がないように思いま
す。二つの大学病院は本来の教育・
研究と最先端医療を中心に医学の
進歩に貢献し、その他の病院は、
それぞれが持っている地域性や機
能を十分に生かせるための調整こ
そが、調整会議の使命であり、真
の地域医療構想ではないかと愚考
いたします。他県では、その地域
全体の経済活動状況を総合的に評
価して、地域活性化の中核となる
ことを目的とした医療計画を策定
している自治体もあります。その
地域にふさわしい、巨視的で、未
来志向的なビジョンの策定が望ま
れます。

病院長研修のご案内

平成29年度は

恵寿総合病院を見学

毎年恒例の「病院長研修」ですが、
今年度は石川県七尾市にある恵寿
総合病院を見学します。同病院は
地域医療のさらなる発展をめざ
し、医療だけでなく、介護、福祉、

保健にも積極的に取り組んでおら
れます。研修日程は以下のとおり
です。会員病院の先生方におかれ
ましては、是非、ご参加をいただ
きますようご案内いたします。

見学日時
平成29年11月17日(金)～18日(土)

第52回

京都病院学会のご案内

今年も平成29年6月11日(日)、池坊短期大学にて第52回京都
病院学会が開催されます。今回の学会は京都府病院協会が
担当となり、三木真司先生(府病協:前副会長)が学会長を
努めます。多数のご参加をお待ちしております。

と き:平成29年6月11日(日) 午前9時～午後5時

ところ:池坊短期大学
(京都市下京区四条室町鶏鉦町)

<京都病院学会事務局 連絡先>

〒600-8411 京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町620番地
COCON烏丸8階(京都私立病院協会内)
TEL:075-354-8838 FAX:075-354-8802
MAIL:gakkai@khosp.or.jp

平成28年度 京都府保健医療・救急医療功労者等知事表彰

本会から個人2名、2団体が受賞

平成28年度京都府保健医療・救急医療功労者等知事表彰の表彰式が11月1日(火)に執り行われ、京都府病院協会からは保健医療・救急医療の各部門において、個人2名、2団体が受賞されました(他団体推薦含む)。受賞者は以下のとお



り。先生方の受賞を心からお喜び申し上げますとともに、今後ますますのご活躍を祈念いたします。

◎本会推薦

《保健医療功労》

個人の部

杉山 博氏 (国立病院機構宇多野病院)

団体の部

公立南丹病院

《救急医療功労》

個人の部

北 堅 吉氏 (日本バプテスト病院)

◎他団体推薦

《救急医療功労》

団体の部

亀岡シミズ病院



平成28年度 病院長研修

社会医療法人近森会 近森病院・近森リハビリテーション病院を見学

各地の優れた病院を訪問し、その先端技術や施設を見学、病院運営などについて意見交換をする機会として例年開催している「病院長研修」を、今年度も11月11日(金)～12日(土)にかけて、高知県高知市の社会医療法人近森会「近森病院」と「近森リハビリテーション病院」を見学しました。今回の参加者は依田会長以下19名で、本会顧問の阿部光幸先生にもご参加いただきました。

残っていくための理念と病院運営について力説されました。地域の中核病院として急性期医療を担ってきた近森病院で特徴的なのが「多職種による病棟常駐型チーム医療」の実践です。チーム医療の一員であるそれぞれの精鋭スタッフがそれぞれの視点で行動し、自立、自動することで、アウトカムが出るチーム医療が展開されており、参考となる取り組みでした。また、救命救急医療の基幹病院トップを目指し、取り組んでこられました。高規格の環境が整備されており、1患者に1台の電子カルテ、モニターディスプレイが設置される等、患者を

見学の冒頭、近森正幸理事長より高知県内の地域医療の現状が報告されました。高知県では高齢化と人口減少が急激に進んでいる中で、全国平均の2倍近くの病床数と3倍近くの療養病床が存在しています。このような状況の中、近森理事長は今後の病院医療のあり方として「激烈な機能分化と空洞化の時代」に入っていくだろうと述べ、将来にわたって自院が生き



近森リハビリテーション病院外観

今回の研修は、急性期医療を担う地域の中核病院として、またリハビリテーション医療の中心的役割を担う地域密着型病院として一見の価値ある病院で、今後の病院経営にとって非常に有意義な見学となりました。

また、近森リハビリテーション病院は、近森病院の南側に流れる江ノ口川を挟んで対岸に位置しており、平成27年8月にオープンした病院です。「急性期リハ」「回復期リハ」「生活期リハ」の3つのステージをつなぐリハビリテーションの実践を目指してこられました。特に、理学療法士80名以上、作業療法士60名以上、言語聴覚士30名以上の豊富なスタッフ体制を整え、多職種による患者中心のリハビリテーション医療が展開されていきました。



院内を見学する参加者(近森病院)

地域医療介護総合確保基金による支援事業のご案内

「勤務環境改善支援事業」を実施 ～是非、ご活用ください～

平成26年度より消費増税分を活用した「地域医療介護総合確保基金」が各都道府県に設置されました。すでに京都府におきましても事業計画が策定され、一部の事業が実施されています。

すでにご案内のとおり、京都府病院協会ではこの基金を活用した「医療機関における勤務環境改善にかかる事業」を申請し、採択されたところです。

支援事業の内容は以下のとおりです。各病院におかれましては、是非、本事業をご活用いただき、今後の勤務環境改善に役立てていただければと存じます。

事業の詳細については、京都府病院協会：事務局までお問い合わせください。

事業名	事業概要	支援内容
スペシャル医療クラーク(SMC)育成事業	<p>京都医療センターの協力のもと、スペシャル医療クラークの育成を図ることにより、勤務環境の改善を図ることを目的とします。</p> <p>★期間：第3回目：平成29年2月13日(月)～3月10日(金) (諸事情により3月3日(金)は休講。) (参加者は最大12名迄) ※1回目、2回目は終了しました。</p> <p>★開催場所：京都医療センター</p> <p>★対象者：各病院で医師事務作業補助者あるいは診療情報管理士として勤務中ないし勤務予定者</p> <p>★申込締切：第3回2月6日(月)到着分まで</p> <p>★書類提出先：京都府病院協会：事務局に願書等の必要書類を添えて提出</p>	<p>以下の費用を補助します。</p> <p>*コース参加費 *参加者の給与の一部 (10万円/名を限度)</p> <p>上記費用については、京都府病院協会より直接、関係機関にお支払いします。</p> <p>また、基金を活用した事業のため、費用の支払いについては年度末あるいは来年度当初のお支払いとなります。</p>
専門医等取得のための学会参加への支援事業	<p>医療関係者のスキルアップのための学会参加を促進することにより、勤務環境の改善を図ることを目的とします。</p> <p>★期間：平成28年4月1日～平成29年2月28日までに参加した学会等</p> <p>★対象経費：学会等への参加費</p> <p>★申請締切：平成29年3月15日まで</p> <p>★書類提出先：京都府病院協会：事務局に学会に参加した証明(受講証)と参加費の領収書を添えて提出</p>	<p>1病院10万円を限度に参加費を補助します。</p> <p>上記費用については、京都府病院協会より直接、医療機関にお支払いします。</p> <p>また、基金を活用した事業のため、費用の支払いについては年度末あるいは来年度当初のお支払いとなります。</p>
救急蘇生トレーニング機材の貸し出し事業	<p>救急蘇生にかかるトレーニング機材を貸し出し、各病院における研修体制の充実、医療関係者のスキルアップを図ることを目的とします。</p> <p>★機材：ALSシミュレータアドバンス</p> <p>★対象：会員病院</p> <p>★申込方法：京都府病院協会：事務局に「利用申請書」を提出</p>	<p>各病院で研修を実施される際に使用する「救急蘇生トレーニング機材」を無料で貸し出しします。</p>